

チリ共和国地域産業振興のための
地方行政機能強化
プロジェクト形成調査報告書

平成 19 年 6 月
(2007 年)

独立行政法人 国際協力機構
経 済 開 発 部

経済
JR
07-083

略 語 一 覧

AGCI	: Agencia de Cooperacion Internacional de Chile	チリ国際協力庁
CORFO	: Corporacion de Fomento de la Produccion	産業開発公社
C/P	: Counterparts	カウンターパート
FOSIS	: Fondo de Solidaridad e Inversión Social	連帯社会投資基金
IDB	: Inter-American Development Bank	米州開発銀行
R/D	: Record of Discussion	討議議事録
SUBDERE	: Subsecretaría de Desarrollo Regional y Administrativo	内務省地域開発次官官房
TOR	: Terms of Reference	業務指示書

目 次

略語一覧

第1章 運営指導調査団の派遣.....	- 1 -
1-1 プロジェクト形成調査の背景.....	- 1 -
1-2 団員構成	- 1 -
1-3 調査日程 2007年4月15日（日）～26日（木）	- 1 -
第2章 調査・協議結果.....	- 3 -
2-1 案件の範囲について	- 3 -
2-2 カウンターパートについて	- 3 -
2-3 PDM（案）	- 4 -
2-4 投入	- 5 -
第3章 主要訪問先	- 7 -
3-1 SUBDERE次官表敬	- 7 -
3-2 アラウコ県知事表敬	- 7 -
3-3 アラウコ県産業振興局長表敬	- 7 -
3-4 在日本大使館表敬	- 7 -
第4章 団長所感	- 8 -
4-1 案件の背景と妥当性について	- 8 -
4-2 案件のフレームワークについて	- 9 -
4-3 検討課題について	- 10 -

付属資料

協議議事録（M/M）英文、西文

第1章 運営指導調査団の派遣

1-1 プロジェクト形成調査の背景

チリは、70年代初めに他の中南米諸国に先駆けて国家主導型産業育成政策から民間主導・開放経済へと政策転換し、その後、80年代初めの債務危機を克服、85年から95年までの10年間で平均成長率6.4%という高い持続的成長を達成した。その後も、アジア経済危機を契機とする一次製品の低迷等により一時経済の減速が見られたものの、着実な経済成長を果たしている。

しかしながら、国内総生産の約50%が首都圏州に集中し、首都圏州以外の12州のうち10州において首都圏州を上回る貧困率を記録していることに見られるように、地域間格差の是正が課題となっている。地方行政は主に内務省が担っているが、州知事は大統領任命により選出されるなど、中央集権的な地方行政が行われている。このため、地方における地元ニーズに基づいたきめ細かな地場産業育成を図る地方行政機能は弱いのが現状である。

これを受け、現バチェレ政権（2006-2010）は新たに全国13州において「州産業振興局」を2006年中に設置し、地方分権型の地場産業育成・イノベーション振興を図る政策を打ち出した。過去地方分権型の地場産業育成の経験のほとんど無い同国において、今後は、中央政府、州政府、県政府、市町村において整合性の取れた地域産業振興政策や制度を、内務省や経済省等多岐にわたる関連省庁の間で調整し、確立する必要がある。

1-2 団員構成

No	氏名	担当	所属	期間
1.	榎下 信徹	団長/総括	JICA 専門技術嘱託	4/15-4/26
2.	福森 大介	調査企画	JICA 経済開発部第一グループ中小企業チーム	4/15-4/26

1-3 調査日程 2007年4月15日（日）～26日（木）

日付	活動日程	宿泊先
4月16日 （月）	19:35 サンティアゴ着（LA751）	サンティアゴ泊
4月17日 （火）	9:00 JICA チリ事務所 10:30 内務省地域開発次官官房（SUBDERE） 昼食 SUBDERE 主催昼食会 16:00 SUBDERE	サンティアゴ泊
日付	活動日程	宿泊先
4月18日 （水）	8:30 サンティアゴ発（LA253） 9:30 コンセプション着	

	10:10 ビオバイオ州表敬 11:20 コンセプション大学インキュベーター 12:20 州産業振興局によるプレゼンテーション コンセプション市→レブ市へ移動 18:00 アラウコ県知事表敬 20:00 県知事主催夕食会 (Mr. Alvaro Rivas)	ビオバイオ州アラウ コ県レブ市泊
4月19日 (木)	09:30 アラウコ県産業振興局局長 12:00 零細漁民視察 13:30 養蜂産業視察 15:00 チーズ零細生産者視察 レブ市→コンセプションへ 19:20 コンセプション発 (LA258) 20:20 サンティアゴ着	サンティアゴ泊
4月20日 (金)	10:30 ラペルラ零細企業支援センター 14:30 SUBDERE	サンティアゴ泊
4月21日 (土)	第5州サンアントニオ県イスラネグラ視察	サンティアゴ泊
4月22日 (日)	ミニッツ準備	サンティアゴ泊
4月23日 (月)	10:30 SUBDERE 15:00 SUBDERE 次官 (Ms. Claudia Serrano) 表敬 15:30 SUBDERE	サンティアゴ泊
4月24日 (火)	11:00 ミニッツ署名 12:00 JICA 15:00 日本大使館 21:10 サンティアゴ発 (LA600)	

第2章 調査・協議結果

2-1 案件の範囲について

- ① 本案件要請内容は、①内務省地域開発局（SUBDERE）、②第8州、③ラベルラ零細企業支援センターの3機関に対する多岐にわたる複数の活動からなり、限られた投入では効果が分散するリスクが大きい。そこで、まずは、成果を確実・効果的なものとするために、①内務省開発局向けの活動に焦点を絞り実施することを先方政府に提案した。②③については、地方政府のリーダーシップで地域開発の仕組みづくりが進んだ時点で、その成果を受けて、日本の支援が必要な場合、改めて要請を検討するよう先方政府に申し入れたところ、先方政府より了承を得た。
- ② 併せて、調査の結果、州の産業振興局は経済省の実施機関である産業開発公社（CORFO）からの予算により設置されていること、ラベルラ零細企業センターは企画省下の連帯社会投資基金（FOSIS）が管轄していることが確認された。つまり、SUBDEREには多岐にわたる関連機関に対する調整役が求められているものの、上記要請の②第8州、③ラベルラ零細企業支援センターについては直接の指揮命令系統を有しておらず、②③を対象としたプロジェクトを実施した場合、効率的に成果を達成することは困難であると考えられる。また、州政府は米州開発銀行（IDB）からの研修を含んだ技術支援を受けており、技術協力プロジェクトの対象とする妥当性は低い。
- ③ 経済省は競争力強化を目標に州産業局を設置¹しているが、SUBDERE²は新たにパイロット的に貧困率の高いアラウコ県、チロエ県、サンアントニオ県で設置を開始し、アラウコ県、チロエ県については、公募により県産業振興局長が選考された。つまるところ、経済省は州単位で成長に主眼を置いた産業政策を担い、内務省（SUBDERE）は県単位で、分配に重点を置いた社会政策を実施するという住み分けが進行中であると見られる。

2-2 カウンターパートについて

SUBDERE 内の既存の地域開発チーム（The Local Economic Development Team）をカウンターパートとすることをミニッツにて確認した。

¹ IDB より、州産業局の設置に対し、20 百万ドルの融資見込み（2007.4 末現在 未ディスバース）。

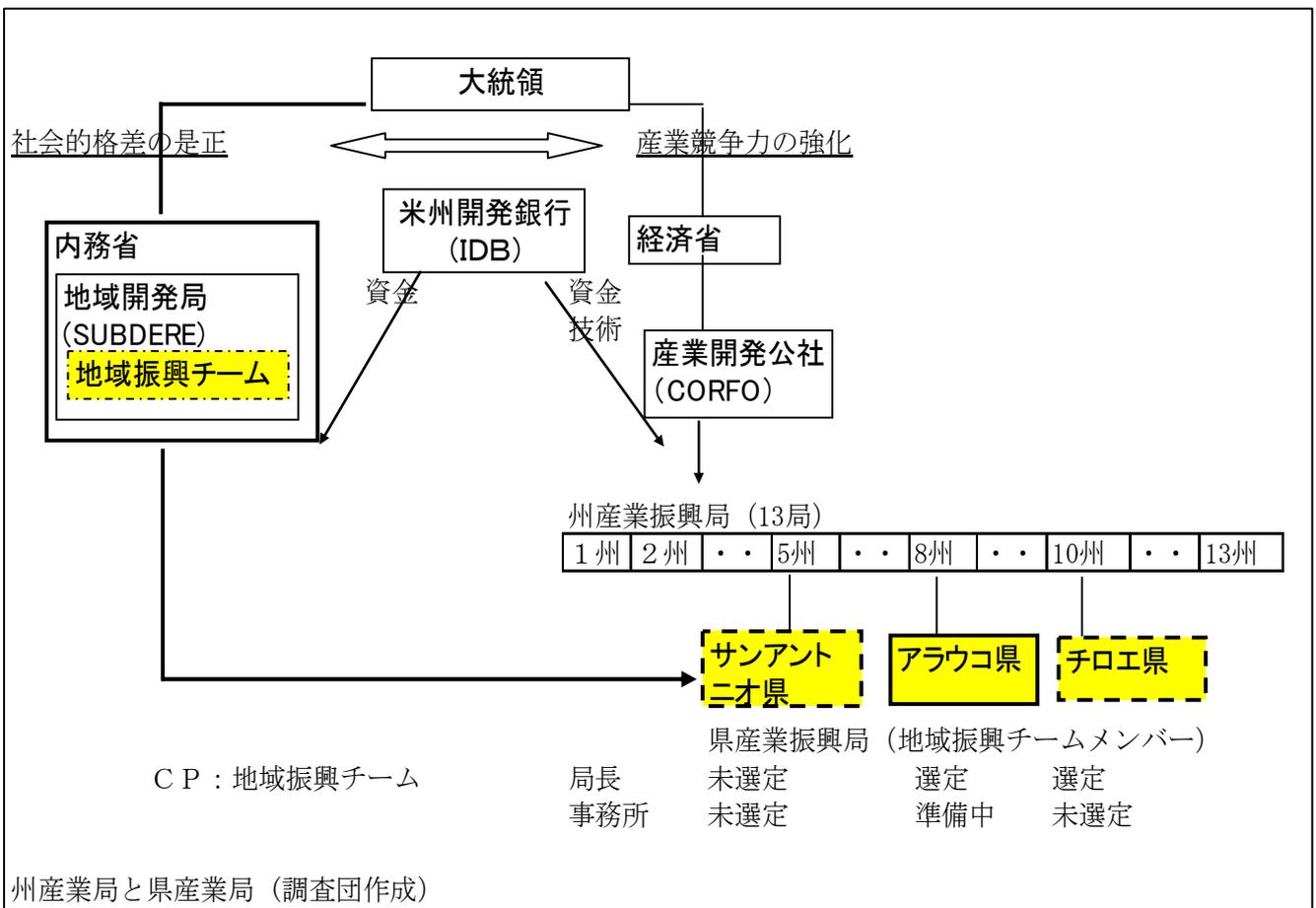
² IDB より、SUBDERE の地方行政機能支援に向け 50 百万ドルの融資見込み（2007.4 末現在 未ディスバース）。ただし、地場産業振興そのものにあてられる比率は低く、地方のインフラ整備等に活用される見込み。

同チームのメンバーは、現状以下の通りである。

- ・町村課 2名
- ・州課 4名
- ・次官官房特命ユニット 2名
- ・県産業局長（サンアントニオ、アラウコ、チロエ） 3名

加えて、暫定的にプロジェクト統括責任者を SUBDERE 局長、実施責任者を副局長とした。

なお、ミニッツ署名時に、チリ国際協力庁（AGCI）より他 JICA 案件と合わせて次官を統括責任者とするほうがよいとの提案があり、次回調査時に確定する必要がある。



2-3 PDM (案)

協議の結果、以下の PDM (案) を作成した。なお、今回の協議ではナラティブ・サマリー (R/D のマスタープランに相当) までの作成まで行っており、指標、外部条件等については、次回の事前調査での協議事項となる。

PDM（案）

上位目標：チリの地域間格差の解消を目指した地域経済開発の推進

プロジェクト目標：地域経済開発のための SUBDERE の組織能力強化

成果：

1. 経験やグッドプラクティスを普及し再現することを目的に、SUBDERE と代表的な州縣市町村政府からなる地域振興チームの人材育成を図る。
2. 地域経済開発担当の公的機関の職員に、ノウハウを伝達する仕組みを確立する。
3. 地域経済開発に関連する経験をフォローアップするモニタリングメカニズムを確立する。

活動：

- 1-1. 本邦研修のデザインと計画策定
- 1-2. 日本での本邦研修の実施
- 1-3. 帰国研修生を核とした地域振興タスクフォース³の結成

- 2-1. 習得したノウハウの普及と再現を図るためのアクションプランの策定と承認
- 2-2. アクションプランの実施

- 3-1. モニタリングシステムと指標の設計
- 3-2. モニタリングの実施
- 3-3. モニタリング結果の分析
- 3-4. グッドプラクティスの普及

2-4 投入

（1）専門家

長期専門家はコーディネーターとして1名派遣することを、暫定的にミニッツにて確認した。同専門家は、①日本の本邦研修受け入れ先と連絡を取りながらコース設計を丁寧に行うこと、②本邦研修で学んだ日本の市町村等の地場産業振興の仕組みをもとに C/P が作成したアクションプランを、C/P とともに実行に移すこと、③上記②の実施あたって必要に

³ 地域振興チーム内に結成

応じて短期専門家のニーズサーベイを行い派遣すること、④上記②の実施の結果をモニタリングするシステムをチリ側カウンターパートと設計、実施、分析すること等の役割が期待される。詳細 TOR については、事前評価調査でつめる予定である。

(2) 本邦研修

先方の問題意識は、つまるところ「中央集権の強いチリで地方分権が進みつつあるが、州、県、市町村でそれぞれどのような役割分担をして、関連機関を調整しながら、地場産業振興を進めていく仕組みを構築するか」というところにあると考えられる。この課題を解決するために、日本で習得を希望する分野は、①一村一品・地場産業の仕組み、②地方での産学官連携・イノベーション政策の取り組み、③評価・モニタリング手法等の関心が先方より表明された。コースの枠組みは以上であるが、個々のコースの内容については次回の事前評価調査及び長期専門家のニーズ調査により丁寧に設計する必要がある。(次回事前評価調査には、研修受入れ候補先の参団が望まれる)

第3章 主要訪問先

3-1 SUBDERE次官表敬

- ・ 県レベルでの下からのアプローチによる産業振興が重要である。そのために一村一品は有効な手段になろう。また現場サイトとして、アラウコ県をプロジェクトの枠組みに入れてほしい。
- ・ 本邦研修はアカデミックな座学ではなく、現場を訪問し、参加し、議論できるものとして欲しい。

3-2 アラウコ県知事表敬

- ・ ビオビオ州アラウコ県の貧困率は38%であり、国の貧困率(20%)の倍である。人間開発の観点から、バチェレ大統領が、公共投資の増額に力を入れている。この投資は、①インフラ整備、②社会開発、③産業振興に向けられている。
- ・ 政府からは資金面で支援を受けているが、ビジネスのノウハウを向上させる人材育成が重要であると考えている。

3-3 アラウコ県産業振興局長表敬

- ・ アラウコ県は産業振興計画(Plan Arauco)のドラフトを作成し、関係機関の承認を待っているところである。同計画では、県として、①観光、②農産品加工、③漁業を有望産業と考えている。生産者はいるが、生産者自らが付加価値をつけることが出来ないことが目下の課題である(仲買人が利益を持っていってしまう)
- ・ アラウコ県産業振興局は、SUBDEREにより設置された。8人の専門家を配置し、アラウコ県を構成する7つの市町村の地場産業振興を行う予定である。

3-4 在日本大使館表敬

- ・ 今次調査に次官自身が対応したことは、本案件に対する期待の表れであろう。
- ・ 研修の分野については、採択された場合、次回の事前評価等で決めていくと理解した。

第4章 団長所感

4-1 案件の背景と妥当性について

- (1) 現在、中南米諸国で顕著な政治動向となっているのが、各政権の左傾化である。その背景となっているのが、貧困であるが、同地域に於いては単に貧困が課題ではなく、「貧富の格差」が社会的課題として浮き彫りになっていることが政治的動向に結着している。そして、その社会的課題は、概ね先住民族の存続と深く関連している。好むと好まざるに関係なく、現代社会の一国の領土の中に一国民として存在するという絶対的事実があるにも拘らず、彼らの人権を尊重した行政サービスが満足に届かなかったという歴史的背景が、中南米地域へ大きなうねりとなって政治課題化している。

因みに、本案件は必ずしも先住民族を対象としている訳ではないが、銘打っている地域格差の概念と彼らの存在は概ねオーバーラップしている。チリ総人口 16 百万人の内、先住民族の占める割合（百万人、6%）は、他国に比して大きな数字ではないこともあり、同旨の政治課題にこそ至ってないが、背景には相似したものがあると言える。

- (2) 現バチェレ政権は中道左派を標榜し、1 年余を経過したところであるが、上記（1）の背景と国土が緯度差 40 度にも及ぶ狭長な地形等と相俟って、地域格差の是正が現政権の大きな政治課題のひとつとなっている。加えて、チリ国では歴史的に中央集権的政治体制が長かったために地域開発に配慮した地方行政機関が不備であり、そのことが同国行政の脆弱性ともなっている。本案件はかかる背景を踏まえて要請されており、バチェレ政権が掲げる「社会的不平等の是正」、そのための「地方行政能力の強化」に符合し、JICA の同国に対する援助重点分野「地域格差の是正」に合致するものである。今回の現地調査もチリ国で最も貧困でかつ先住民族が多い第 8 州のアラウコ県（貧困率は全国平均 18% に比し、同県 36%。県人口 18 万人中、先住民族 25 千人。）の訪問がアレンジされ、本プロジェクトが掲げる地域産業振興ならびに地方行政機能強化の最終ターゲットグループが、市町村レベルの貧困層に在ることが実感された。

- (3) JICA は経済省傘下の産業開発公社（CORFO）をカウンターパートとして、経済開発調査を実施し、2001 年にチリ国全土にわたる開発計画を提言している。同調査では、州単位の全国の地域特性を踏まえた産業振興が謳われているが、その視点はあくまで一国の産業振興、特に市場競争力を踏まえた提言であり、今回の調査のごとくマ

オリジナルな地域（県、市町村単位）の貧困層へのアプローチには欠けている。その意味で、CORFO の調査は市場経済原則からの視点であったが、今回の内務省 SUBDERE（産業振興次官官房）からの要請は、経済性に加え、社会性の強い内容の技術協力プロジェクトとなっている。換言すれば、一国の産業振興は経済省主管であるが、同省主導型では社会的格差の是正が難しく、その反省が内務省主導による格差是正のための産業振興と地方行政機能強化に至ったものと推量される。

4-2 案件のフレームワークについて

- (1) 要請内容には 3 案件が含まれていたが、当方から SUBDERE 対象の 1 件のみに絞りたいとの表明に対し、チリ側からはまったく異論が無かった。
- (2) 要請の特徴は、「研修員受け入れ事業」が協カスキームのメインであり、研修員がプロジェクトの計画立案者であり、かつ実施者に等しいということである。研修員がプロジェクト推進の主役となれば、本邦研修の内容が重要であり、本案件の成否を握っていると申しても過言ではない。カウンターパートと目される SUBDERE 内の専門チームが本邦研修に来訪した際には、いかに OJT 研修になるようなチリ国事情に応じたカリキュラムが組めるかが問われることになる。今後の研修員受け入れ事業は、本邦において在外プロジェクト現場での疑似体験をいかにして提供できるかが重要であり、その可否が戦略的にプロジェクトの中核的存在としてカウンターパートを活用できるかに直結している。その意味で、次回の事前調査には、研修員受け入れ関係者の参団が強く望まれる。
- (3) プロジェクト目標は、協議の結果、「地域経済開発のための SUBDERE の組織能力強化」となったが、SUBDERE の地域の概念は上記 1. でも述べたとおり、マクロな州単位（現在 13 州、来年 15 州に増）よりもミクロな視点（県・市町村単位）に重きがあり、西語の表現振りが「Regional」ではなく「Territorial」となっているところにもそのニュアンスの違いが現れている。しかしながら、要請内容では組織強化の視点で 13 州に於ける AGENCY（州経済産業振興局）の設置が謳われており、同局の傘下にある合同委員会には州の代表者に加え、中央官庁である経済省、文部省、農業省、企画省などの関係機関も含まれることから、その設置と共に委員会の運営調整が円滑に行われるか否かは、SUBDERE のリーダーシップの発揮次第ということになろう。なお、AGENCY の事業予算は主に IDB から CORFO に対する 3 年間融資 20 百万 US ドルが充当される由である。
- (4) 日本側からの長期専門家派遣は 1 名の予定であるが、関係機関の多様さや活動地域の広がりにも鑑みて、西語能力に加えて技協経験が有り、調整能力の高い人材を選考

する必要がある。SUBDERE 自体に JICA との技協体験が無いことが不安材料視されていることもあり、同専門家の選考には尚更慎重さが求められる。

4-3 検討課題について

- (1) 当方からプロジェクト検証の場として「パイロット・サイト」の提案を行ったが、先方は検討に時間を要するとして回答を保留した。上述したように、組織強化の対象を SUBDERE 自体におくことに異論は無いが、プロジェクトの最終受益者であるコミュニティレベルでのパイロット・サイトを設けることは、いずれ本プロジェクトの評価の指標として必要となると思われる。その際、州単位ではあまりにも広漠としており、各州での事情や動きも異なることから、県・市町村単位に絞ることが賢明である。内務省の地域事業開発は、優先的にターゲットをコミュニティ単位に置いており、経済省の影響力が強い州単位に比して、コミュニティに対する行政の影響力も強いのが現状である。
- (2) 今回、プロジェクト形成調査ではあったが、指標抜きで一応の PDM 案の協議を行った。カウンターパートの人数、専門分野や期待される成果への関与の仕方など不明な点も依然としてあるが、次回の事前調査では十分合意内容に至るものと確信される。

付 属 資 料

協議議事録 (M/M) (英文、西文)

MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPANESE PROJECT FORMULATION TEAM
AND
AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF CHILE
ON
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION PROJECT
FOR THE STRENGTHENING OF REGIONAL ADMINISTRATIVE FUNCTION
FOR THE LOCAL INDUSTRIAL PROMOTION
IN THE REPUBLIC OF CHILE

The Japanese Project Formulation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Nobutetsu Enoshita, conducted a survey from April 16th to April 24th, 2007 for the purpose of discussing the framework of a Project for the strengthening of the regional administrative function for the local industrial promotion (hereinafter referred to as "the Project").

During its survey, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Chilean authorities. As a result of the discussions, the Team and the Chilean authorities concerned agreed on the matters referred to in the document attached hereto.

The Minutes have been made in English and Spanish. In case of divergence as to its interpretation, the English version shall prevail.

Santiago, April 24th, 2007

榎下信敏

Mr. Nobutetsu Enoshita
Leader, Japanese Project Formulation
Team
Japan International Cooperation Agency
Japan

Ms. María Angélica Ropert D.
Chief, Regional Development Division
Subsecretaría de Desarrollo Regional y
Administrativo
Ministry of the Interior
Republic of Chile

Witnessed by

Margaret Ciampi S.
Ms. Margaret Ciampi S.
Head of Legal Department
Chilean International Cooperation Agency
Republic of Chile

902

THE ATTACHED DOCUMENT

1. Current situation of the application for the Project and the procedure for approval by the Government of Japan

Both side confirmed that the application submitted by the Government of Chile (hereinafter referred to as "GOC") to the Government of Japan is currently under consideration process and has been waiting for its approval. After the Project Formulation Study is completed, the following steps will be taken before the commencement of the Project.

- 1) The Team will convey its observations and comments to Ministry of Foreign Affairs (MOFA) and Ministry of Economy, Trade and Industry (METI) in Japan.
- 2) MOFA and METI in Japan will make a decision on the approval of the Project.

If the approval is obtained,

- 3) JICA will dispatch the Ex-ante evaluation team to implement the evaluation and discuss the draft of the Record of Discussion. (hereinafter referred to as "R/D")
- 4) JICA and Chilean side will sign and exchange the R/D.
- 5) The date of the commencement of the Project will be stipulated in the R/D.

2. Project Design Matrix (PDM)

The Team suggested that the Project focus on the Component 1, targeting for SUBDERE. (Notes: The original application addressed that the Project consisted of three components: Component 1 for SUBDERE, Component 2 for Bío Bío Region and Component 3 for La Perla Center). Both sides confirmed that the Project would be implemented in accordance with the Narrative Summary of the Project Design Matrix (PDM ver.0) in Annex I.

3. Provisional Counterpart List

- 1) Project Director: Chief of Regional Development Division, SUBDERE.
- 2) Project Manager: Chief of Department of Regional Strengthening and Management, SUBDERE.
- 3) The Local¹ Economic Development Team which consists of approximately 9 to 11 members from SUBDERE (2 professionals from the Municipality Division, 2 to 4 professionals from the Regional Development Division and 2 professionals from the Special Plans Unit of the Under-secretariat Cabinet) and 3 Directors of the Provincial Industrial Development Office (Chiloé, Arauco and San Antonio).

¹ Note: The term "Local" used in the English version of the MM refers to "Territorial" in Spanish Version. "Territorial" refers to a geographical unit focused on the economic, social and cultural homogeneity. This concept does not necessarily coincide with the provincial or municipal political division.

4. Provisional Measures to be taken by JICA

The Team explained that JICA would take the following measures if the approval is obtained. These measures will be defined during the stay of the Ex-ante Evaluation Team.

- 1) Long term Japanese expert as Project Coordinator.
- 2) Short term Japanese experts.
- 3) Training of Chilean personnel.

The Team explained that JICA would arrange the training course in Japan. The contents of training course will be specified, based on the needs survey during the execution of the Project.

5. Relevant Issues

- 1) The Chilean side suggested the modification of the name of the Project to "Strengthening of the Management Capacity of SUBDERE and of Regional / Provincial / Municipal Governments in the field of Local Economic Development".
- 2) The Team suggested that the Director of the Project be the Regional Development Under-Secretary as the maximum authority of SUBDERE. In this case, the Manager of the Project would be the Chief of the Regional Development Division.
- 3) The Team made a recommendation to select a Province as a pilot project site in order to verify the progress and result of the Project.
- 4) The Project Design Matrix (PDM) together with the Plan of Operation (PO) will be finalized by the Chilean side and the Ex-ante Evaluation Team, including the detailed indicators, inputs required for the execution of the Project, etc., as the Project Formulation Team has only discussed about the Narrative Summary of the PDM.
- 5) In order to achieve the objectives proposed in the Project, both sides estimated that the term of the cooperation could be for 3 years.
- 6) The Chilean side emphasized the request of accepting 40 Chilean trainees proposed in the original application. The Team explained that it is almost impossible to accept 40 trainees. The Chilean side repeated the request of the 40 trainees. The Team has explained the request will be carried out to Japan.

h.

CCP

WY

**Narrative Summary of Project Design Matrix (PDM ver.0)
on the Project for the Strengthening of regional administrative function
for local industrial promotion in Chile**

Overall Goal:

Contribute to the territorial economic development for the overcoming of the territorial inequity in Chile.

Project Purpose:

Strengthen the management capacity of SUBDERE and of Regional / Provincial / Municipal Governments in the field of local economic development.

Outputs:

- 1) A team of SUBDERE and of prioritized regional/provincial/municipal governments is being strengthened in order to transfer and replicate the experiences and good practices to be acquired under this project.
- 2) A know-how transfer process addressed to the public sector professionals who are in charge of the territorial economic development is being established.
- 3) A monitoring mechanism for the follow-up of experiences related to the territorial economic development to be acquired under this project is being established.

Activities:

Output 1):

A team of SUBDERE and of prioritized regional/provincial/municipal governments is being strengthened in order to transfer and replicate experiences and good practices acquired under this project.

Activities for 1):

- 1-1 Designing and planning of a training program in Japan.
- 1-2 Execution of the training program in Japan.
- 1-3 Formation of a task force with Ex-trainees.

Output 2):

A know-how transfer process for professionals of the public sector who are in charge of the territorial economic development is being established.

Activities for 2):

- 2-1 Designing and approval of action plans for the transfer and replication of the

acquired know-how.

2-2 Execution of the action plans.

Output 3):

A monitoring mechanism for the follow-up of the experiences as to the territorial economic development to be acquired under this project is being established.

Activities for 3):

3-1 Designing of a monitoring mechanism setting down the corresponding indicators.

3-2 Execution of the monitoring.

3-3 Analysis of the monitored results.

3-4 Dissemination of good practices.



List of Attendants

< Chilean Side >

Subsecretaría de Desarrollo Regional y Administrativo (SUBDERE), Ministry of the Interior

María Angélica Ropert, Chief of Regional Development Division
Hernán Del Canto, Chief of International Relations Unit
Arturo Sáez, Chief of the Special Plans Unit: Arauco, San Antonio
Carlos Haefner, Chief of Municipal Strengthening Department
Mónica Villablanca, Chief of Regional Strengthening and Management Department
Lenia Planas, Advisor, Field of Regional Agencies of Industrial Development
Cecilia Cordero, Advisor, Field of Innovation, Sciences and Technology



< Japanese Side >

Project Formulation Team

Nobutetsu Enoshita, Team Leader
Daisuke Fukumori, Study Planning

JICA Chile Office

Hiroshi Nishiki, Resident Sub-Representative
Toshimi Kobayashi, Officer
Tazuko Ichinohe, Officer
Tamayo Ito, Project Formulation Advisor
Magdalena M. Saita, Interpreter



MINUTA DE LAS REUNIONES
ENTRE
LA MISION JAPONESA PARA LA FORMULACION DEL PROYECTO
Y
AUTORIDADES CONCERNIENTES DEL GOBIERNO DE
LA REPUBLICA DE CHILE
SOBRE
EL PROYECTO JAPONES DE COOPERACION TECNICA
PARA EL FORTALECIMIENTO DEL MECANISMO ADMINISTRATIVO
REGIONAL PARA EL FOMENTO PRODUCTIVO LOCAL
EN LA REPUBLICA DE CHILE

La Misión japonesa para la Formulación del Proyecto (en adelante denominada "Misión") organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante denominada "JICA") y encabezada por el Sr. Nobutetsu Enoshita entre el 16 al 24 de abril de 2007, con el propósito de discutir el marco del Proyecto sobre el Fortalecimiento del Mecanismo Administrativo Regional para el Fomento Productivo Local (en adelante denominado "el Proyecto").

Durante su estadía en Chile, la Misión intercambió puntos de vista y sostuvo una serie de discusiones sobre temas relativos al Proyecto con las autoridades chilenas. Como resultado de dichas discusiones, la Misión y las autoridades chilenas concernientes llegaron a establecer entendimientos mutuos sobre las materias referidas en el documento adjunto.

La minuta de las reuniones ha sido redactada tanto en inglés como en español. La versión en inglés prevalecerá sobre la versión en español en caso de divergencia en su interpretación.

Santiago, 24 de abril de 2007.

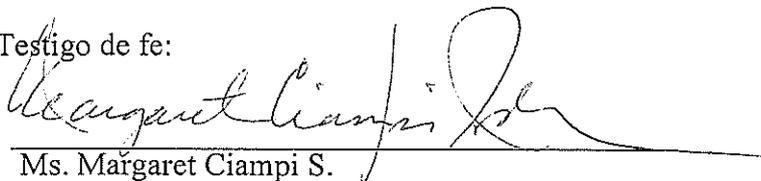
榎下信徳

Sr. Nobutetsu Enoshita
Líder, Misión Japonesa para la
Formulación del Proyecto
Agencia de Cooperación Internacional de
Japón
Japón



Ms. María Angélica Ropert D.
Jefa de División de Desarrollo Regional
Subsecretaría de Desarrollo Regional y
Administrativo
Ministerio del Interior
República de Chile

Testigo de fe:



Ms. Margaret Ciampi S.
Fiscal
Agencia de Cooperación Internacional de Chile
República de Chile

ves

DOCUMENTO ADJUNTO

1. Situación actual de la Solicitud del presente Proyecto y del procedimiento para la aprobación por parte del Gobierno del Japón.

Ambas partes han confirmado de que la solicitud presentada por el Gobierno de Chile (denominada en adelante “el Gobierno”) ante el Gobierno del Japón se encuentra actualmente bajo consideración de este último en espera de su aprobación. Una vez que concluyan los estudios para la formulación del Proyecto, se tomarán los siguientes pasos antes del inicio del mismo:

- 1) La Misión comunicará sus observaciones y comentarios al Ministerio de Relaciones Exteriores y al Ministerio de Economía, Comercio e Industria de Japón.
- 2) Tanto el Ministerio de Relaciones Exteriores como el Ministerio de Economía, Comercio e Industria del Japón tomarán la decisión con respecto a la aprobación del Proyecto.

Si el Proyecto se aprobara,

- 3) JICA enviará una Misión de Evaluación Ex-Ante para realizar la evaluación y discutir sobre el borrador del Registro de Discusiones (en adelante denominado “R/D”)
- 4) Tanto JICA como Chile firmarán e intercambiarán el R/D.
- 5) La fecha de comienzo del Proyecto será estipulado en el R/D.

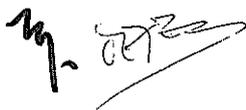
2. Matriz de Diseño del Proyecto (o PDM, en sus siglas en inglés).

La Misión ha sugerido que el Proyecto se focalice en el Componente 1 dirigido a SUBDERE (Nota: la solicitud del proyecto original consistía en tres componentes: Componente 1 para SUBDERE, Componente 2 para la Región del Bío Bío, y el Componente 3 para el Centro de Emprendedores La Perla).

Ambas partes han confirmado por la presente de que el Proyecto sería implementado de acuerdo con el Resumen Narrativo de la Matriz de Diseño del Proyecto (PDM ver.0) adjunto al presente como Anexo 1.

3. Listado provisorio de las contrapartes.

- 1) Director del Proyecto: Jefe de División de Desarrollo Regional, SUBDERE.
- 2) Gerente del Proyecto: Jefe de Departamento de Fortalecimiento y Gestión Regional, SUBDERE.
- 3) Equipo de Desarrollo Económico Territorial conformado por aproximadamente 9 a 11 miembros de SUBDERE (2 profesionales de la División de Municipalidades, 2 a 4 profesionales de la División de Desarrollo Regional, y 2 profesionales de la



**Resumen narrativo de la Matriz de Diseño del Proyecto (PDM ver.0) sobre:
“Proyecto Fortalecimiento del Mecanismo Administrativo Regional para el
Fomento Productivo Local en Chile”**

Objetivo superior:

Contribuir al desarrollo económico territorial para la superación de la inequidad territorial en Chile.

Objetivo del Proyecto:

Fortalecer la capacidad de gestión de SUBDERE y Gobierno Subnacional en el ámbito del desarrollo económico territorial.

Resultados Esperados:

- 1) Se fortalece un equipo especializado en el fomento de desarrollo económico territorial en la SUBDERE y gobiernos subnacionales priorizados con el propósito de transferir y replicar experiencias y buenas prácticas conocidas en el marco de este proyecto.
- 2) Se establece un proceso de transferencia de conocimientos para profesionales del sector público que se desempeñan en el ámbito del desarrollo económico territorial.
- 3) Se establece un mecanismo de monitoreo para dar seguimiento de la apropiación de las experiencias del desarrollo económico territorial conocidas en el marco de este proyecto.

Actividades:

Resultado esperado 1):

Se fortalece un equipo especializado en el fomento de desarrollo económico territorial en la SUBDERE y gobiernos subnacionales priorizados con el propósito de transferir y replicar experiencias y buenas prácticas conocidas en el marco de este proyecto.

Actividades 1):

- 1-1 Diseño y planificación de un programa de capacitación en Japón.
- 1-2 Ejecución del programa de capacitación en Japón.
- 1-3 Formación de un equipo de trabajo de ex-becarios.



Resultado Esperado 2):

Se establece un proceso de transferencia de conocimientos para profesionales del sector público que se desempeñan en el ámbito del desarrollo económico territorial.

Actividades 2):

- 2-1 Elaboración y aprobación de planes de acción para la transferencia y replicabilidad de conocimientos adquiridos.
- 2-2 Ejecución de planes de acción.

Resultado Esperado 3):

Se establece un mecanismo de monitoreo para dar seguimiento de la apropiación de las experiencias del desarrollo económico territorial conocidas en el marco de este proyecto.

Actividades 3):

- 3-1) Diseñar un mecanismo de monitoreo, estableciendo los indicadores
- 3-2) Se realiza el monitoreo.
- 3-3) Se analiza el resultado del monitoreo.
- 3-4) Se difunden las buenas prácticas.



Unidad de Planes Especiales del Gabinete de la Subsecretaría) y 3 Directores de Oficina Provincial de Desarrollo Productivo (Chiloé, Arauco y San Antonio).

4. Medidas provisionarias por parte de JICA

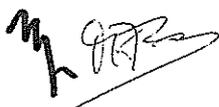
La Misión ha explicado que JICA tomará las siguientes medidas en caso de que el presente Proyecto se apruebe, las que serán precisadas durante la estadía de la Misión de Evaluación Ex-ante.

- 1) Experto japonés de largo plazo como Coordinador del Proyecto.
- 2) Expertos japoneses de corto plazo.
- 3) Capacitación del personal de la parte chilena.

La Misión ha explicado que JICA se encargará de los arreglos relacionados con el curso de capacitación en Japón. Los contenidos del curso de capacitación serán especificados en base a los estudios para detectar las necesidades durante el período de ejecución del Proyecto.

5. Aspectos relevantes

- 1) La parte chilena ha sugerido modificar el nombre del proyecto por “Fortalecimiento de la Capacidad de Gestión de SUDERE y Gobierno Subnacional en el ámbito del Desarrollo Económico Territorial”.
- 2) La Misión ha sugerido que el director del proyecto sea la Subsecretaria de Desarrollo Regional en su calidad de máxima autoridad de SUBDERE. En este caso, el gerente del proyecto sería el Jefe de División de Desarrollo Regional.
- 3) La Misión ha sugerido seleccionar una provincia como sitio del proyecto piloto, a fin de verificar el avance y los resultados del presente Proyecto.
- 4) La Matriz de Diseño del Proyecto (PDM) será concluida por la parte chilena y la misión de Evaluación Ex-Ante, junto con el Plan Operativo del Proyecto (PO), incluyendo los indicadores en detalle, los insumos requeridos para la ejecución del proyecto, etc., dado que la Misión actual solo ha discutido sobre el Resumen Narrativo del PDM.
- 5) Para lograr los objetivos propuestos en el Proyecto, ambas partes han estimado que el plazo de la cooperación sea de 3 años.
- 6) La parte chilena ha enfatizado la solicitud de aceptar 40 becarios chilenos en Japón, propuestos en la solicitud original. La Misión ha explicado que sería casi imposible aceptar 40 becarios. La parte chilena reitera la solicitud de los 40 becarios. La Misión ha explicado que la petición será llevada a Japón.



Listado de Participantes

<Parte chilena>

Subsecretaría de Desarrollo Regional y Administrativo

María Angélica Ropert, Jefa de la División de Desarrollo Regional
Hernán Del Canto, Jefe de la Unidad de Relaciones Internacionales
Arturo Sáez, Jefe de la Unidad de Planes Especiales: Arauco, San Antonio
Carlos Haefner, Jefe del Departamento de Fortalecimiento Municipal
Mónica Villablanca, Jefa del Departamento de Fortalecimiento y Gestión Regional
Lenia Planas, Asesora, Área Agencias Regionales de Desarrollo Productivo
Cecilia Cordero, Asesora, Área de Innovación, Ciencia y Tecnología

<Parte japonesa>

Misión para la Formulación del Proyecto

Nobutetsu Enoshita, Jefe de la Misión
Daisuke Fukumori, Encargado de la Planificación del Estudio

Oficina de JICA en Chile

Hiroshi Nishiki, Sub-Representante Residente
Toshimi Kobayashi, Funcionaria
Tazuko Ichinohe, Funcionaria
Tamayo Ito, Asesora en Formulación de Proyectos
Magdalena M. Saita, intérprete

